

農業活性化へ振興大会

農家やJAの取り組み紹介



伊藤さんが農場管理の手法などを解説

JAはだのは19日、本所で第8回地域農業振興大会を開いた。生産組合長や業種別部会の部会長、直売所出荷者ら146人が参加。秦野市の農業活性化に一丸となって取り組んでいくことを誓い合った。

大会では毎回、管内で活躍する農家やJAの取り組みを紹介している。今回は、GAP（農業生産工程管理）「ASIA GAP（アジアギャップ）」の認証を取得した

菩提の伊藤隆弘さんが登壇。タフレット端末のアプリを活用した農場管理の手法やGAP導入のメリットを発表した。続いて、TAC（地域

農業の担い手に向く営農担当者）が、鳥獣被害対策として農家に栽培を促しているエゴマの生産振興の取り組みを紹介。日本大学生物資源科学部

の北宜裕教授も登壇し、環境に優しい都市農業の推進について講演した。最後に、都市農業の確立に向けた大会宣言を採択した。



「はだの生搾りえごま油」と手作りのPOP

やえのちゃんびーなマンの「JAってなに??」

協同組合講座で学ぼう

JAはだのは、協同組合や生活・農政について幅広く学べる「協同組合講座」を開いているんだ。

3つの講座で、幅広い視野に立ったJA運動のリーダー育成と、共に活動に参加し合える組織づくりのために毎年開いています。

講座の中では、JAのいろいろな取り組みをご紹介！意外と知らない秦野の魅力も再発見できるかも？講義を聞いたり、市外に視察に行ったり、内容は盛りだくさん！

皆さんのお申し込みをお待ちしていますね！各支所・支店、または組織教育課（881-7714）まで。

	組合員基礎講座	組合員講座	専修講座
内 容	協同組合の基礎的な学習。JAはだの取り組みを中心に、座学、視察などを視察	農政コース「税金・農政・法律」と、生活コース「健康・文化・環境」に分かれて学習。それぞれのテーマで座学と視察	2年1期。グループワークや視察を通して、協同組合や農政、生活などについて深く学ぶ
対 象	准組合員とその家族	組合員とその家族	組合員講座修了者
募集定員	50人	60人	
期 間	2018年5月～2019年1月		定員に達したため、募集を終了しました。
締め切り	4月13日（金）		

農家とJAがコラボ 落花生で新たな特産品を

JAはだの生活福祉課 挑戦している。食材にはと、加工品を製造・販売 職員が栽培した落花生をする農家がタッグを組 使い、農家が赤飯やまんみ、新たな特産品作りにじゅうを試作。3日にじ

ばさんずで販売し、売れ行きや消費者ニーズを探った。同課は昨年約77kgの畑で栽培し、収穫後に手むきた約10kgを材料に、農家と商品作りを進めてきた。平沢の草山美重子さんは煮

4月21、22日は春まつり 秦野市園芸協会



秦野産カーネーションを無料配布（昨年）

ブドウなどの果樹類を栽培する草山の須藤洋子さん。開成町で生まれ育ち、結婚を機に草蒲に移り住んだ。出産後は子育てと農業に汗を流し、忙しい日々を過ごした。その後は、JAの理事や女性部の上支部長などを務めて地域を盛り上げ、現在は農業と女性部活動に励む他、JAの結



草蒲の須藤 洋子さん(68)

訪れる子どもたちの笑顔が須藤さん自身の励みになっている。女性部活動にも積極的に参加し、現在は3つの目的別趣味グループに所属。女性部本部役員OGで構成する「ひばりの会」や、腹話術の「笑顔（ほほえみ）」「コーラスの「フラワー重謡の会」に参加するが、須藤さんの日々の楽しみにしている。

4月からは結婚相談員として2年目に入る須藤さん。「まだ勉強中だが、1組でも多くのカップルができるよう頑張っていきたい」と意気込む。

JAはだの

発行所 秦野市農業協同組合（神奈川県）
〒257-0015 秦野市平沢477
電話 0463(81)7711(代)
編集兼発行者 宮永 均

若き農業経営士が5人誕生
秦野市内に5人の若手農業経営士が誕生した。市農業経営士会の会員増加は8年ぶり。農業活性化の中核を担う存在として、今後の活躍に期待がかかる。

メール情報配信サービス QRコードで登録を
JAはだのは、携帯電話・パソコンなどのメール・月2回のメールマガジンを利用した情報配信サービスと、営農・じばさんす

セレニーホールなどのさまざまな情報を発信しています。上記のQRコードをスクリーンを



林会長のハウスに咲き誇る色鮮やかなスターチス

生産意欲向上へ じばさんず大会 GAP進めよう



じばさんずは12日、JA本所で第16回元気がいっぱい生産者大会を開いた。出荷者94人が出席した。同店は昨年度、約9億9500万円を売り上げ、来店者数は延べ54万9000人に達した。10月からは独自のGAP（農業生産工程管理）を取り組むことで消費者に

文中の表彰などの人名紹介際の敬称は省略させていただきます。

秦野産の洋花出荷最盛

卒業・入学式シーズンを迎える。秦野市ではストックやユリなどの洋花の需要が高まっている。花き部会一般切花研究会の会員らは、じばさんずなどの出荷に連日励む。

同研究会の林道弘会長もその一人。良質な花に仕上げるための栽培管理を徹底し、出荷時にフィルムを活用するなど、消費者に美しい花を長く楽しんでもらう工夫を凝らしている。

林会長は「丹精して育てた花をお祝いなどに使ってもらえたらうれしい」と笑顔を見せた。



生産組合のメンバーとヒニールを張る宗雅さん⑥

平沢の三協町生産組合は、地域の若手農家を応援しようと、花き農家を支援している。加藤宗雅さんのビニールハウスの組み立て作業に協力した。露地で小菊を栽培する加藤さんにとって、ハウスを活用することで、より良質な小菊の生産が見込める。地域の力を農業後継者のサポートに一役買っている。

ハウスは、宗雅さんの父・政市さんが知人から譲り受けたもの。完成させるには、組み立てるだけではなく、設置されていた南足柄市の畑から解いたビニールを送る。

文中の表彰などの人名紹介際の敬称は省略させていただきます。

自己改革 着実に実践



山口組合長が自己改革への意気込みを力強く語った

JAはだの管内に、新たに5人の若手農業経営士が誕生した。秦野市農業経営士会の会員増加は8年ぶり。地域農業振興の中核を担う存在として、5人の今後の活躍に期待がかかる。

JAはだの3日、本所で開催された「地域農業振興の必要と実践決意集会」を開いた。事業年度の初めに開催しているもので、今年で3回目。役員288人が出席し、農家の所得向上に向けて自己改革を着実に実践していくことを誓い合った。

改革推進室の三瓶壮文室長らが、自己改革の進捗状況や2018年度の事業方針などを報告した。

他、3月から取り組みを開始した第三次地域農業振興計画の概要などを説明。今後の事業展開について、役員が認識を深めた。

その後、農林水産省経営局協同組織課の日向章課長が「農協改革と農協への期待」と題して講演。農業を巡る国際情勢や農業競争力の強化の必要性、農協改革の現状などを解説した上で「農業者にとって必要とされるJAになることを期待する」と呼び掛けた。

山口政雄組合長は「今後も役員が一丸となり、全力で改革に取り組みんでいく」と意気込みを語った。



審査では、組合員や地域に関する話題の豊富さや、写真やイラストの工夫などを総合的に評価。今後地域活動をPRするために活用されている。

最優秀賞に輝いた上支所の「あやめニュース」は、写真が大きく使うインパクトのある紙面構成と、組合員や地元住民の笑顔が多く掲載されている点などが高い評価を得た。

作成を担当する上支所の大坪美佳さんは「見た人に興味を持ってもらえるように工夫している。今後地域活動をPRしたい」と笑顔を見せた。

「あやめニュース」は、写真が大きく使うインパクトのある紙面構成と、組合員や地元住民の笑顔が多く掲載されている点などが高い評価を得た。

作成を担当する上支所の大坪美佳さんは「見た人に興味を持ってもらえるように工夫している。今後地域活動をPRしたい」と笑顔を見せた。

自己改革の下部には「収益の一部は赤い羽根共同募金に寄付されます」と記載し、協力を呼び掛けてきた。2016年に取り組みをスタートし、これまでの寄付金額は210万円以上になる。

JAはだの、各施設に設置している飲料自動販売機の収益の一部から、116万2646円を「赤い羽根共同募金」として神奈川県共同募金会に寄付した。1本売れるごとに約6円募金される仕組みで、今回寄付したのは昨年1月1日から12月31日までの分。

現在、自販機は各支所・支店やじばさんなどに30台を設置している。

花持ちの良い花生産

加藤宗雅さん(平沢)

平沢の加藤宗雅さんは、2013年に就農し、現在は1・26畝の畑で小菊やケイトウなどを栽培する。栽培技術の向上や省力化などに常に高い意識を持って農業に励んでいる。8月咲きの小菊に電照

鉢花と野菜苗に情熱

富田茂晴さん(平沢)

平沢の富田茂晴さんは、海老名市にあるかながわ農業アカデミーや地方卸売市場小田原園芸などで栽培技術や販売知識などを学んだ後、2002年に就農。04年には、花き部会鉢花部の部長として活躍してきた。

農業経営士5人が誕生

酪農理解促進に全力

田中一美さん(上大槻)

上大槻の田中一美さんは、県立中央農業高校畜産科と帯広畜産大学を卒業後、鶴巻の門倉種豚場や留学先のオランダで畜産の知識を身に付け、2005年に就農。現在は、30頭を飼育している。

牛の飼養管理に工夫

原秀徳さん(今泉)

今泉の原秀徳さんは、2004年に就農。現在は両親と共に約60頭を飼育している。飼養管理に高い意識を持ち、牛の生育に必要な種類の飼料を混合した「TMR飼料」を頻回給餌する他、牛舎内

高品質トマトに意欲

村上耕一さん(堀山下)

堀山下の村上耕一さんは、東京農業大学や留学先のオランダなどでトマトの栽培技術を学んだ後、2007年に就農した。現在は、3棟のハウス合計約40畝でトマトとミニトマトを栽培す

栽培を導入し、盆などの需要期へ精進して育てた花は、秦野市の「優良安定出荷に成功 農業散布時に良農産物等登録証制度」の認証も受けている。

加藤さんは「新規就農者が安定した農業に取り組みでいけるよう、父や農家の先輩から受け継いだ知識や技術を伝えるなど、積極的に協力していきたい」と意気込んでいる。

長として活躍してきた。

現在、合計39畝の施設でシクラメンやハイビスカス、ニチニチソウの他、夏野菜の苗も栽培している。中でも、手掛けたシクラメンの品種は50以上。鉢の直径が9・18センチのさまざまなシクラメンを取り扱い、幅広い消費者ニーズに応えている。出荷先のじばさん

酪農家の仲間と連携して市内の幼稚園や小学校で搾乳などのイベントを開き、市民の畜産への理解促進に取り組んでいる。地域貢献にも力を入れ、同地区で増えている休耕地を活用して飼料用デントコーンなどを栽培している。秦野市農業後継者クラブ「秦友会」の会長を務めていた時には、

に扇風機や細霧装置を設置して生でから離乳するまでの子牛「哺乳育環境を整える」など常に工夫を凝らす。その結果、原さんが飼育する牛の年間乳量は、県の一頭当たりの年間平均乳量より800gも多し、約9・4tに上る。

原さんは「県内の畜産農家は年々減少している。人材育成に努め、畜産業の発展に貢献していきたい」と意欲を燃やす。

る。水分を巧みに調整し、同じ品種でも糖度の違うトマトを作り分けているのが村上さんの栽培の特徴だ。市場やじばさん、市内の量販店などに出荷し、品質の高さから多くのリピーターを獲得している。

加工品作りにも着手し、昨年にはトマトジュースの販売を開始。

に彩り、来店者の目を惹きつけた。栗原さんは「野菜の頭の頭にはカブ、髪の毛には切り干し大根、烏帽子(えぼし)にはネギを使い、野菜の特徴を生かしながら体を制作。体には、しなせておいたハボタシと紫キャベツの十二単(ひとこゝ)を羽織らせた。

今年はより華やかになるように、自宅に咲くツバキを頭飾りに付け、着物のスエーデンをあしらった

盤上で熱戦

囲碁将棋大会

囲碁・将棋同好会は8日、本所で2017年度の総会と会員対象の囲碁・将棋大会を開いた。囲碁の部に28人、将棋の部に14人の合計42人が参加した。

総会では、17年度の活動報告や18年度の活動計画を承認した。盤上で熱戦を繰り広げた後は互いの健康を称え合い、戦局を振り返った。大会の結果は次の通り。

○囲碁A▽優勝 〓奈良橋守一(今泉台)
○囲碁B▽優勝 〓小島英之(上大槻)
○将棋A▽優勝 〓古谷喜美(寺山)



真剣に打ち合う参加者

チーム一丸で勝利へプレー

ソフトボール大会

JAはだの4日、秦野市で第29回組合員ソフトボール大会を開いた。7チーム102人が熱戦を繰り広げた。

同大会は中学生以上が対象で、1チームに1人以上の女性が出場することや、盗塁をしないなどの独自のルールを適用している。選手は声を掛け合いながらチーム一丸となつてプレーし、女性選手もヒットを打つなどチームに貢献した。

優勝した尾尻・西大竹チームが、白熱した試合を制して優勝した。

参加者は、仲間と共に良い汗をかけた。球技を通して幅広い年代の人と交流できて楽しかったと話した。



優勝した尾尻・西大竹チーム

発見 成長の足跡

No.419

曲松で「割烹 あやめ荘」を営む堀西の栗飯原勇さん(70)

地元で愛される店に

3年後の忘年会の予約を受けるほど人気の店となっている。心掛けていることは、

調理をメインに掃除や送迎など何でも行うのですが、何事にも手抜きをしない。地道に丁寧な作業をすることを心掛けています。「また来たい」と思ってもらえるよう、お客さまへ



市内の方が9割です。幅広い世代の方々に、お食事の他、忘年会や新年会、法事などで利用していただいている。毎週末、料理が自慢です。20種類ほどの料理を試し、納得いった一品を提供しています。調理方法が秘密ですが、気になる方は食べに来てください。

——やりがいとは？
お客さまからいただいた「おいしかった」の一言です。また、お客さまを自宅近くまで送迎していることで、本人やご家族からとても感謝されています。

——今後の展望は？
健康に気を付け、無理せず店を1日でも長く続けることです。お客さまの笑顔を励みに、妻と一緒に頑張ります。

野菜びなお目見え

地場産野菜使い華やかに

栗原さんが手掛けた野菜が、

じばさんが2月27日、地場産野菜で作った約10品目を使って手作りした。3月3日の桃の節句まで店内を華やかに飾り付けた。

栗原さんは「毎年楽しみにしている。地域活性化に貢献したい」と意欲を燃やす。

に彩り、来店者の目を惹きつけた。栗原さんは「野菜の頭の頭にはカブ、髪の毛には切り干し大根、烏帽子(えぼし)にはネギを使い、野菜の特徴を生かしながら体を制作。体には、しなせておいたハボタシと紫キャベツの十二単(ひとこゝ)を羽織らせた。

今年はより華やかになるように、自宅に咲くツバキを頭飾りに付け、着物のスエーデンをあしらった

- 長寿者に記念品贈呈
- おめでとうございます。末永くお元気で過ごしてください。
- 77歳(喜寿)
- ▽本町地区 〓川口隆(幸町) 佐野紘一(曾)
- 88歳(米寿)
- ▽本町地区 〓小澤勝利(末次町) 久保田二郎(曾屋)
- ▽西地区 〓栗原玉江(若松町)
- ▽上地区 〓和田美智子(八沢)
- ※自己申告です。該当の方は各支所・支店までご連絡ください。

はだの市民農業塾始まる

受講生31人
開講式で激励

農業の担い手育成事業「はだの市民農業塾」の2018年度のカリキュラムがスタートした。はだの都市農業支援センターが、農業参画を目指す市民を対象に毎年開催。今年度は受講生31人が、農業の知識習得に励む。3日に本所で開いた開講式では、塾長を務める高橋昌和市長や副塾長の島海久元農業委員会会長らが受講生を激励した。



伊藤さん④から管理機の操作を教わる受講生
トシ以来、509人が修了し、秦野の農業発展に貢献している。7日には、堀山下の研修圃場(ほじょうで、新規就農コースの実習が始まった。露地野菜を栽培する沢尻の伊藤総司さんが講師に、受講生5人がジャガイモを植え付けながら、畝の深さや種手を置く間隔など栽培のポイントを学習。管理機の使用など農業作業の基礎も習得し



梨の品質向上を 剪定の仕上がり確認

果樹部全梨部は2日、部員の梨園を巡回し、冬の剪定(せんてい)状況を回った。部員7人が、枝の仕上がりを確認しながら、収量確保や品質向上に向けて意見を交換した。

県農業技術センター職員らの指導の下、部員は市内4カ所の園で剪定後に残した枝の太さや本数を確認。枝の伸びる方向や日光の入り方を確認しながら、剪定の仕上がり確認

から、剪定不足の枝を手有を図った。生かして部全体で作業に励んでいきたい」と意気込む。

JAグリーンは頑張る農家を応援

4月4～13日
肥料、農薬を割り引き

くみあいシアン有機 特806

正味 20kg

供給 全農

特別価格で販売する肥料と農薬

有害鳥獣の対策強化 講習会で生態や行動学ぶ

はだの都市農業支援センターは9日、本所で有害鳥獣捕獲講習会を開いた。有害鳥獣の生態や行動を学ぶ。有害鳥獣捕獲講習会を開いた。有害鳥獣の生態や行動を学ぶ。



有害鳥獣の生態や行動を学ぶ。有害鳥獣捕獲講習会を開いた。有害鳥獣の生態や行動を学ぶ。

有害鳥獣の生態や行動を学ぶ。有害鳥獣捕獲講習会を開いた。有害鳥獣の生態や行動を学ぶ。

文芸の窓

俳句 酒井 敏光 選
梅白きははの教へし人の老々 高橋 順子 (大森町)
観音の千手柔らに玉椿 柳川みち子 (栄町)
春風邪や夫の手垢の七分粥 森高 由子 (渋沢)
新米の保父来て土手の草青む 高島美和子 (名古屋)
大空に木の芽ゆくりふくらみぬ 吉田 清美 (渋沢)
丹田にひびくコントラバス春愁 菊池としえ (菩提)
曾我梅林雪見障子の残る家 志賀 明子 (千村)
四年間苦難に耐えて金メダル 芦川 松江 (八沢)
千物を膝にて畳おぼろの夜 石原 松枝 (渋沢)
庭々のラッパ水仙吹き鳴らす 酒井 紗恵 (桜町)
夕厨コマを香らす木の芽和 柴崎 和子 (渋沢)
体内を水の気廻る木の芽とき 選者

今日の理事会

3月23日に理事会を開催し、次のことを審議しました。

▽2017年度決算にかかる償却・引当案について

▽2017年度貸借対照表、損益計算書、注記表、剰余金処分案及び事業報告並びにこれらの附属明細書の監事及び全国農業協同組合中央会への提出について

▽「神奈川県移行対策JABA本部設置要領」および「JASTEMシステム基盤改修機管理計画書」の廃止について

▽職制規程の一部変更(案)について

▽第55回通常総会の開催について

▽役員選任議案を総会に附議する件について

▽役員報酬を総会に附議する件について

▽「退任役員に対する退任慰労金の贈呈について」を総会に附議する件について

▽定款の一部変更について

▽秦野市農業協同組合企業年金規約の変更について

▽運用の基本方針(企業年金)の変更について

▽2018年度(平成30年度)指導事業の費用に充てるための経費(賦課金)について」を総会に附議する件について

▽信用事業規程の一部変更について

▽信用事業方法書(金融機関等の業務代理)の一部変更について

▽「お客さま本位の業務」について

第14回ボランティア交流会

年々深まる互いの親睦
「第14回ボランティア交流会」

JAデイサービスセンターは、はだのイベントやボランティア活動を紹介します。

楽しいよ
「デイサービス」

JAデイサービスセンターは、はだのイベントやボランティア活動を紹介します。

募集 JA正職員

応募資格 大学・短大を2019年3月卒業予定者で市内および隣接市町に在住の方

募集人員 若干名

職種 JA業務全般

応募受付期間 5月1日(火)まで

応募方法 下記ホームページの採用情報欄をご覧ください

お問い合わせ先 千257-0015 秦野市平沢477番地 秦野市農業協同組合 企画管理部 総務課 TEL.0463-81-7711(平日午前8時30分～午後5時)

ホームページアドレス <http://ja-hadano.or.jp>

《俳句》久保寺 富男 選
北国に災害免れし芋ならむ いとおしみつつ種芋を切る 今井 かつめ (羽根)
評 昨年は北海道、東北に自然災害が集中した年であった。作者は馬鈴薯の種を切り分けて、生産農家の苦労をおもっているのだから。
耐えぬいて五輪連覇の金メダル 涙とともに光り輝く 久保田 浩 (寺山)
わら巻きて寒に耐え来しハマユウの 葉はしなびたり春まだ浅く 小田 実 (鶴巻北)
お猿のみ展示されいる小田原城址に 象のウメ子のレリーフ残る 細田 富士 (千村)
垣根越しけなげに咲いた寒椿 ヒヨに追われてメジロたじろぐ 伊東 久 (渋沢)
友の言う悲しき言葉に心病み 忘るることの難しき知る 石田(さる) (水神町) 選者
ふんわりと花の季来ぬわが身には 逝きし者への悲しみのせて

もずくのかつら

大根支部 宿矢名2班 花木陽子

材料(4人分) ■もずく200g、ニラ半束、ショウガ1片、油適量、A(小麦粉1カップ半、卵1個、塩小さじ1/2、水1カップ弱) <作り方> ①Aを混ぜて、少し固めに衣を作る。 ②ニラは3～4cmの長さに切り、ショウガは千切りにする。 ③①に②ともずくを入れしっかりと混ぜ合わせる。 ④大きめのスプーンで③をすくい、油で揚げる。 <ひとことアドバイス> ニンジンなどを入れてアレンジできますが、野菜を入れ過ぎないのがもずくの味を生かすコツです。冷凍保存できるので、たくさん作ってストックできます。

税務相談日 4月10日(火) 午前9時30分～
法務相談日 4月20日(金) 午後1時30分～
場所 (株)協同コンサルトはだの 881-2329
予約制となっていますので、事前にお電話にてご予約をお願いいたします。
受け付け順に相談時間が決まります。

結婚相談日 4月10日(火) 午前9時～正午
時間 午前9時～正午
場所 JAはだの本所 農業団地センター1階
お問い合わせ 組織教育課 881-7714

JA教育ローン

とくとくプラン

JAバンクは、進学の夢を応援します。

入学金、授業料、学費、パソコン購入費、アパート等入居費用、海外渡航費等教育費用に関するもの。

JAマイカーローン

とくとくプラン

キャンペーン 店頭・WEB金利引き下げ

平成30年 1/1 平成30年 3/31

・自動車、バイク購入費用 ・カー用品購入資金
・他社自動車ローンの借換 ・運転免許取得費用
・車検費用 等にご利用いただけます。

インターネットでかんたん事前審査申し込み! 983-0000 085-17719
PC・スマートフォンでご利用可能! JAはだの 検索

詳しくは各支所・支店または融資課まで TEL 81-7713

告知板

お問い合わせは生活福祉課まで。☎81-7717

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

共進会出品の野菜を販売

じぼさんずNEWS

【4月のイベント】

☆「入学フェア」1日(日)桜を使ったまんじゅうや赤飯などを販売します。

☆「おすすめ品」7日(土)、8日(日)おすすめの乾物などを販売します。

☆「国産加工豚の日」14日(土)、28日(土)㈱フリーデンが国産加工豚の加工品を販売します。

☆「春まつり」21日(土)、22日(日)夏野菜苗を中心にたくさんの野菜苗を取りそろえてお待ちしています。

☆「試食の日」毎週火曜日生産者が出荷している旬の野菜やレシピを紹介します。

☆「たまごの日」毎週月、金曜日店頭価格から10%引き。

※「みくるべたまご」は除きます。

今月の生産者



下大槻の 小清水 伸一さん

出荷品目

ホウレンソウなど年間通して露地野菜を10品目以上虫が多くなる時期ですが、農業の散布回数を抑えて栽培。安全面に気を付けていますので、安心して食べていただけます。4月からはレタスやタマネギを出荷していく予定です。

じぼさんずNEWS

【4月のイベント】

☆「入学フェア」1日(日)桜を使ったまんじゅうや赤飯などを販売します。

☆「おすすめ品」7日(土)、8日(日)おすすめの乾物などを販売します。

☆「国産加工豚の日」14日(土)、28日(土)㈱フリーデンが国産加工豚の加工品を販売します。

☆「春まつり」21日(土)、22日(日)夏野菜苗を中心にたくさんの野菜苗を取りそろえてお待ちしています。

☆「試食の日」毎週火曜日生産者が出荷している旬の野菜やレシピを紹介します。

☆「たまごの日」毎週月、金曜日店頭価格から10%引き。

※「みくるべたまご」は除きます。

今月の生産者



下大槻の 小清水 伸一さん

出荷品目

ホウレンソウなど年間通して露地野菜を10品目以上虫が多くなる時期ですが、農業の散布回数を抑えて栽培。安全面に気を付けていますので、安心して食べていただけます。4月からはレタスやタマネギを出荷していく予定です。

じぼさんずNEWS

【4月のイベント】

☆「入学フェア」1日(日)桜を使ったまんじゅうや赤飯などを販売します。

☆「おすすめ品」7日(土)、8日(日)おすすめの乾物などを販売します。

☆「国産加工豚の日」14日(土)、28日(土)㈱フリーデンが国産加工豚の加工品を販売します。

☆「春まつり」21日(土)、22日(日)夏野菜苗を中心にたくさんの野菜苗を取りそろえてお待ちしています。

☆「試食の日」毎週火曜日生産者が出荷している旬の野菜やレシピを紹介します。

☆「たまごの日」毎週月、金曜日店頭価格から10%引き。

※「みくるべたまご」は除きます。

今月の生産者



下大槻の 小清水 伸一さん

出荷品目

ホウレンソウなど年間通して露地野菜を10品目以上虫が多くなる時期ですが、農業の散布回数を抑えて栽培。安全面に気を付けていますので、安心して食べていただけます。4月からはレタスやタマネギを出荷していく予定です。

JAバンク

スプリング

キャンペーン2018

働くあなたの応援団

キャンペーン実施期間

2018年2月1日(木)～5月31日(木)

1 給与振込口座を新たに指定いただくと応募者全員に松下奈緒QUOカード5,000円分プレゼント!

2 JAカードで携帯電話料金をお支払いいただくとニコスギフトカード1,000円分プレゼント!

3 JAカードをJA直売所でご利用しお買い物いただくと5%割引!

休日ローン

年金相談会

住宅の新築・お借り換えやお車のご購入、お子さまの教育資金など、各種ローンのご相談を無料で承っております。お気軽にご相談ください。

これから年金を受け取る皆さまの複雑な受給手続きのお手伝いをさせていただきます。

日時

4月22日(日)

会場

JAはだの本所

農業団地センター

※時間は午前9時～午後4時まで

それぞれ事前予約をされると便利です

●各種ローンを相談される方は融資課 TEL.81-7713

●年金受給手続きを相談される方は信用課 TEL.81-7716

当日は ☎0120-954-093

当日は ☎0120-954-092

工場見学しランチバイキング

班長は、口腔(こうくう)ケア製品やスキンケア製品などを開発、製造する日本ゼトック相模原事業所を訪問。職員による会社の事業説明の後、歯磨き粉の製造工程を見学し、徹底した衛生管理の下で商品が作られていることを知った。

その後、東京都多摩市の京王プラザホテル多摩内にあるレストラン『樹林』で昼食。バイキング形式で季節限定の料理や鉄板で焼きたてを提供する肉料理など豊富なメニューに舌鼓を打った。最後に、東京都八王子市の三井アウトレットパーク多摩南大沢店に立ち寄り、買い物を楽しんだ。

班長の一人は「部員同士の仲が深まった。工場見学など、今後の活動の参考にしたい」と話した。

意識高め 輪を広げ 活性化

女性部は2月23日、相模原市と東京都を訪れ、班長研修会を開いた。各支部の班長63人が、仲間と親睦を深め、活動の活性化を図った。

班長は、口腔(こうくう)ケア製品やスキンケア製品などを開発、製造する日本ゼトック相模原事業所を訪問。職員による会社の事業説明の後、歯磨き粉の製造工程を見学し、徹底した衛生管理の下で商品が作られていることを知った。

その後、東京都多摩市の京王プラザホテル多摩内にあるレストラン『樹林』で昼食。バイキング形式で季節限定の料理や鉄板で焼きたてを提供する肉料理など豊富なメニューに舌鼓を打った。最後に、東京都八王子市の三井アウトレットパーク多摩南大沢店に立ち寄り、買い物を楽しんだ。

班長の一人は「部員同士の仲が深まった。工場見学など、今後の活動の参考にしたい」と話した。

女性部サポーター募集

趣味や特技生かそう

女性部は昨年度、多くの部員が全体的な運営に積極的な役割を果たした。今年度も募集します。

①料理運営委員会

②運動会運営委員会

③農業まつり運営委員会

④保育ボランティア運営委員会

⑤大豆プロジェクト委員会

⑥5つの運営委員会

女性部総会に出席を

3月29日

午後1時から

「ぴーなマン」をブリンとしたバッグを進呈します。

代表者4人が発表

女性部総会終了後、同会場で「JAはだの家」の光大会を開きます。

代表者4人が「家の光」記事活用や女性部活動を通じて体験を発表します。

皆さんの応援が、発表者の励みにもなります。

女性部総会に出席を

3月29日

午後1時から

「ぴーなマン」をブリンとしたバッグを進呈します。

代表者4人が発表

女性部総会終了後、同会場で「JAはだの家」の光大会を開きます。

代表者4人が「家の光」記事活用や女性部活動を通じて体験を発表します。

皆さんの応援が、発表者の励みにもなります。

女性部総会に出席を

3月29日

午後1時から

「ぴーなマン」をブリンとしたバッグを進呈します。

代表者4人が発表

女性部総会終了後、同会場で「JAはだの家」の光大会を開きます。

代表者4人が「家の光」記事活用や女性部活動を通じて体験を発表します。

皆さんの応援が、発表者の励みにもなります。



歯磨き粉の製造工程を見学

目指せ!戸川公園

仲間と楽しく交流

歩こう会

目的別趣味グループ「歩こう会」は2月19日市内で第4回の活動を行った。会員39人が、散策しながら交流を深めた。

会員は、波沢駅を出発し、四十八瀬川沿いを川のせせらぎや鳥の鳴き声などを聞きながら歩き、県立秦野戸川公園を目指した。約2時間のコースを散策した後は、公園内の景観を楽しんだ。歩いた行程や身近な話で盛り上がり、互いに親睦を深めた。

会員は「歩きながら景色を楽しみながら、自然の恵みを再確認できた」と話した。

女性部総会に出席を

3月29日

午後1時から

「ぴーなマン」をブリンとしたバッグを進呈します。

代表者4人が発表

女性部総会終了後、同会場で「JAはだの家」の光大会を開きます。

代表者4人が「家の光」記事活用や女性部活動を通じて体験を発表します。

皆さんの応援が、発表者の励みにもなります。

女性部総会に出席を

3月29日

午後1時から

「ぴーなマン」をブリンとしたバッグを進呈します。

代表者4人が発表

女性部総会終了後、同会場で「JAはだの家」の光大会を開きます。

代表者4人が「家の光」記事活用や女性部活動を通じて体験を発表します。

皆さんの応援が、発表者の励みにもなります。

4月の女性部行事予定表

6日(金) 13:30～女性部本部役員会

11日(水) 10:00～県女性協新旧役員会

12日(木) 9:00～女性部支部役員会(西)

// 9:30～女性部支部役員会(大根)

// 13:30～女性部支部役員会(本町・上)

13日(金) 9:30～女性部支部役員会(東)

// 13:30～女性部支部役員会(南・北)

16日(月) 10:00～若いリーダー代表者会議

18日(水) 10:00～県女性協総会およびJA女性部長・事務局会議

25日(水) 10:30～5JA新旧部長事務局会議

組合員の意見がJAを後押し！ 心一つに改革進めよう ～春の座談会にご出席ください～

4月6日(金)から18日(水) 市内83会場で開催



組合員の皆さまの意見や要望をJAの運営に反映し、組合員参加による協同組合運動を進めようと、春の座談会を4月6日(金)から18日(水)まで市内83会場で開きます。

2017年度の事業報告や2018年度の事業計画、自己改革への取り組みなどについて報告します。

また、日頃JAについて疑問に思っていることや、ご意見・ご要望をぜひ、お聞かせください。

組合員の皆さまのご出席をお願いいたします。



昨年の春の座談会(北町)



発行所
秦野市
農業協同組合
(神奈川県)
〒257-0015
秦野市平沢 4 7 7
TEL 0463-81-7711(代)
編集兼発行者 宮永 均
印刷所 ㈱タウンニュース社



本町支所新店舗 5月7日(月)オープン！

本町支所の新店舗が5月7日(月)にオープンします。新店舗は、秦野駅前通り商店街に位置し、地域の新たな拠点として期待されています。

1階には金融共済窓口と全自動貸金庫を設置。2階には多目的ホールや、料理教室としても利用できる会議室を設け、さまざまな用途に対応できる空間づくりを考えて設計しました。防災拠点としても機能させるため、建物の安全性を十分に確保した耐震構造設計です。今後、年金やローンなどに関する各種相談会も開催します。

駐車場は、引き続き工事を行っているため台数に限りがあります。ご不便をお掛けしますが、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

皆さまのご来店をお待ちしています。

全自動貸金庫 利用案内

区 画	123マス
使 用 料	組合員は年額18,000円(税別)
	組合員外は年額21,600円(税別)
利用時間	平日・休日 8:30～21:00

協同組合運動の躍進に向けて



代表理事組合長

山口 政雄

春の座談会特集号の発行に当たりまして、ごあいさつ申し上げます。

わが国経済は、海外経済の回復や五輪関連の投資の増加などを背景に底堅く推移し、緩やかな回復基調が続いているものの、個人消費の拡大には至らず、緊迫化する北朝鮮・中東情勢や欧米の政治動向、中国経済の減速懸念などの下振れリスクには留意が必要です。

農業・JAを取り巻く環境では、1992年より市街化区域内の一定の農地に対する生産緑地の指定が始まりましたが、指定から30年目に当たる2022年を控え、宅地などへの転用増加が懸念され、都市農地の保全に向けた取り組みが求められています。また、「CPTP(包括的および先進的な環太平洋パートナーシップ協定)」や「日欧EPA(経済連携協定)」など、貿易の自由化交渉は進展しており、国内農業に多大な影響を及ぼすことが懸念されています。

JAはだのでは、このような厳しい情勢変化の中、さらなる農業振興と協同組合運動の躍進に向けて、「第四次中期経営計画」最終年度の実践に取り組みます。

組織運営では、支所運営委員会を中心に地域に根差した協同活動を充実させ、組合員の参加と結集を促します。

営農指導事業では、JAはだの営農経済改革に全力で取り組み「第三次地域農業振興計画」初年度の確実な実践に努めます。「はだの都市農業支援センター」と連携し、多様な農家ニーズに対応した営農支援と都市農業の利点などを踏まえた取り組みを進めるとともに、TAC(地域農業の担い手)に出向く営農担当者(訪問活動)の充実と生産振興作物の見直しを進めます。

販売事業では、「安全・安心」「地産地消」の推進による農産物の供給拡大を図ります。また「はだのじばさんず」を拠点とした買い取り販売を拡大し、生産者の所得増大につなげます。経済事業では、購買品の仕入機能の強化や営農指導と連携した提案活動により農業者の生産コストの削減に努めるとともに、経済事業収支の改善を図ります。

金融共済事業では、総合JAとして、便利で安心な地域金融機関の役割を発揮することや、総合保障の拡充を進めるなど、組合員や利用者のニーズを的確に捉え、満足度の向上を目指します。

経営管理では、「JAはだの自己改革」を含む「第五次中期経営計画」(2019年度～2021年度)の策定を進め、新執行体制による堅実な経営管理と内部管理態勢の強化により、経営の健全性と信頼性の維持に努めるとともに、創立55周年を記念した事業を展開します。

JAはだのは「食と農を基軸として地域に根差した協同組合」として、組合員と共に基本理念である「夢のある農業と次世代へつなぐ豊かな社会を地域でできずく」の実現を目指し、さらなる地域農業振興と豊かで暮らしやすい地域社会づくりに取り組んでまいります。

春の座談会では2017年度事業概況を報告するとともに、多くのご意見やご質問をいただき、今後の事業運営に反映させていきたいと考えておりますので、一人でも多くの組合員のご出席をお願いいたします。

歩むJAはだの

JAはだののすがた

ピーなマン

活動の実績

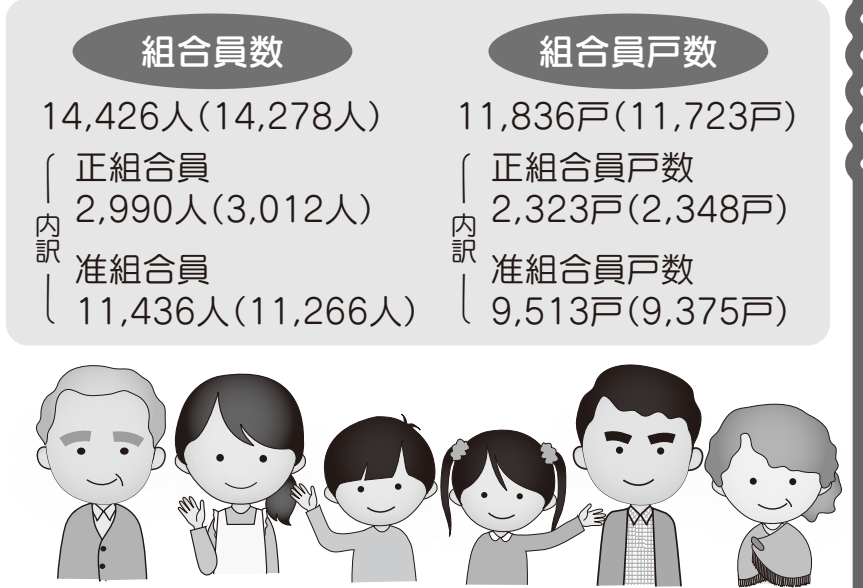
●2018年2月28日現在
●（ ）内は前年同期実績
●数字は単位未満切り捨て

この特集号での数値は速報値となります

④ 営農活動の取り組み

- ◇「地域農業振興計画」による営農指導の充実
- ・販売力強化に向けた販路の拡大
 - ・営農指導員の確保と資質向上
 - ・農業機械レンタル実施に向けた体制整備
- ◇はだの都市農業支援センターとの連携
- ・収穫体験型農園オーナー制度や旅行会社と連携した観光農業の実践
 - ・鳥獣被害防止に向けた取り組みの実践

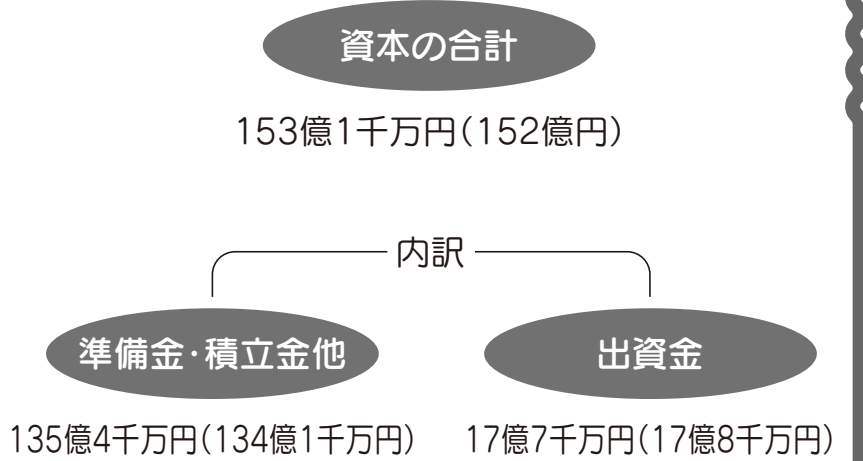
① みんなの仲間



⑤ 安全・安心な農産物の供給

- ◇「はだのじばさんず」を中心とした新鮮で安全・安心な農産物の供給
- ◇「Jiba-GAP」の導入
- 全体の取扱高 23億3千万円(24億7千万円)
- <はだのじばさんずの利用状況>
- 利用者総数 54万9千人(55万6千人)
- 1日当たりの利用者数 1,517人(1,538人)
- 取扱高 9億9,353万円(10億1,072万円)
- 1日当たりの取扱金額 274万円(279万円)

② 資本の状況



⑥ 生活指導と福祉活動の取り組み

- ◇健康寿命100歳プロジェクトの展開
- ◇女性部制作の「ピーなマン体操」を使った健康づくり
- ◇生活文化活動や子育て支援の取り組み
- ◇加工品作りや起業を支援するため「加工相談会」を新たに開催
- 〈人間ドック〉 受診者人数 740人 (720人)

〈乳がん・子宮がん検診〉 受診者人数 48人 (47人)

〈長寿記念品の贈呈〉 人数 184人 (207人)

③ 組織活動・教育広報の取り組み

- ◇支所運営委員会による協同活動の展開
- ◇協同組合意識の高揚と組合員リーダーの育成
- ◇次世代対策活動と食農教育活動の充実
- ◇農政活動・税制と補償対策
- ◇オリジナルキャラクター「やえのちゃん」
- 「ピーなマン」を活用したJAのPR
- 



組合員・地域と共に 2017年度

⑩ 農業・生活・事業資金などのご融資

- ◇農業振興や生活・事業などの資金対応
- ◇休日ローン相談会の開催
- ◇住宅・マイカー・教育ローンとくとかプランの実施

貸出金残高

418億2千万円
(404億5千万円)



⑪ 万ーに備えての共済

長期共済新契約高

407億3千万円(314億1千万円)

長期共済保有高

4,469億1千万円(4,531億3千万円)



1年間に支払った事故などの共済金額

内 訳	事 故	1,518件	11億8千万円	(1,400件	9億3千万円)
	生 命	717件	7億6千万円	(679件	6億円)
	建 物	169件	2億1千万円	(139件	7千万円)
	自動車	622件	2億円	(574件	2億5千万円)
	その他	10件	1千万円	(8件	1千万円)

⑫ 活動のみのに

当期剰余金

2億4千万円
(3億8千万円)



⑬ (株)協同コンサルトはだの

- ◇まかせて安心JAのマイホーム建設
- ◇入居者に喜ばれる共同住宅のあっせん

入居率

97.2%
(97.7%)

⑦ 共同購入でくらしを豊かに

- ◇予約購買による生産資材の供給
- ◇安全・安心な生活物資のPRと供給

全体の供給高

33億3千万円(36億7千万円)

内訳

生産資材

13億2千万円(12億5千万円)

生活物資

20億円(24億2千万円)

※生活物資には、施設建設の取り扱いを含む
13億2千万円(17億9千万円)

⑧ くらしのための共同施設の利用

- ◇JAセレモニーホールはだのの運営の充実強化
- ◇利用者に満足いただける旅行の提供

全体の取扱高

6億5千万円(6億9千万円)

主な施設の取扱高

旅行センター

1億4千万円(1億6千万円)

JAセレモニーホールはだの

215件 5億円(228件 5億1千万円)

⑨ 便利で安心 JAバンク

- ◇特別貯蓄運動・キャンペーンの実施
- ◇年金相談会の開催

貯金残高

2,208億9千万円
(2,202億9千万円)



第55回通常総会を開催

●日時 5月21日(月)午後1時30分～
●場所 秦野市文化会館 大ホール

第55回通常総会を5月21日(月)午後1時30分から秦野市文化会館大ホールで開きます。総会はJAの最高意思決定機関で、JAの運営や今後の取り組みなど、組合員の総意により決定します。一人でも多くの組合員の皆さんの出席をお願いします。

第55回通常総会提出議案は、下記の第1号議案から第9号議案まで上程します。

通常総会提出議案

第1号議案

2017年度（平成29年度）貸借対照表、損益計算書、
剰余金処分案、注記表及び事業報告の承認について

第2号議案

JAはだの「第三次地域農業振興計画（2018年度～
2022年度）」の設定について

第3号議案

2018年度（平成30年度）事業計画の設定について

第4号議案

役員報酬の決定について

第5号議案

2018年度（平成30年度）指導事業の費用に充てるた
めの経費（賦課金）について

第6号議案

退任役員に対する退任慰労金の贈呈について

第7号議案

定款の一部変更について

第8号議案

信用事業規程の一部変更について

第9号議案

役員の選任について

その他臨時案件



やえのちゃん&ぴーなマン

会場入場券のご持参を

総会に出席される方は、開催案内に記載
されている「会場入場券」を必ずご持参く
ださい。

なお、総会出席者に配布する粗品は、ご
来場されたご本人のみとさせていただきます。



2017年度(平成29年度)剰余金処分案

1.当期末処分剰余金	7億7千万円	(3)事業分量配当金	8千9百万円
2.剰余金処分別	2億3千万円	3.次期繰越剰余金	5億3千万円
(1)任意積立金	1億8百万円	※数字は単位切り捨て	
①組合員教育特別積立金	7百万円	(注) 1.出資配当は2.0%の割合です。 2.事業の利用分量に対する配当金の基準は、定期貯金、 定期積金、譲渡性貯金の年間平均残高10万円以上に 対して1万円につき10円の割合です。	
②協同活動顕彰基金	1百万円		
③地域農業振興基金	1億円		
(2)出資配当金	3千5百万円		

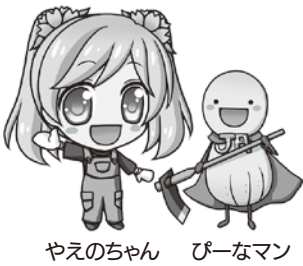
第三次地域農業振興計画の策定について

～次世代につなぐ「はだの都市農業」の実現に向けて～

2018 年 3 月～ 2023 年 2 月

JAはだのでは、「都市農業の確立」を目指し、秦野の農業の活性化を図るため、『第三次地域農業振興計画～次世代につなぐ「はだの都市農業」の実現に向けて～』を策定しました。JAはだのが基本理念に掲げる『夢のある農業と次世代へつなぐ豊かな社会を地域できずく』を踏まえ、「はだの都市農業」が目指す方向性を明確にしました。

本計画の基本的な考え方を以下にご報告します。



やえのちゃん ぴーなマン

1. 生産振興と産地づくり

- 将来性のある作物を振興作物に選定し、重点的に生産振興に取り組みます。
- 有利販売に向けた高品質化や周年販売に向けた取り組みを進めます。
- GAP（農業生産工程管理）や生産履歴記帳の確実な取り組みにより、安全・安心な農産物作りを徹底します。
- 鳥獣被害対策について、農家や地域・組織など、それぞれの主体によって講ずるべき措置を明確化し、その取り組みを総合的に進めます。

2. 販売戦略の確立

- 消費者ニーズや実需者に対応した販売先を選定し、契約栽培や計画出荷の取り組みを進めます。
- 「はだのじばさんず」を中心に、地域特産品のPRや情報の発信拠点としての機能強化を図り、「地産地消」のさらなる充実に取り組みます。
- 学校給食への地場産農産物の供給や学校農園の野菜苗の提供などを行い、次世代を担う子どもたちへ食と農の理解促進を図ります。

3. 農業経営の改善と担い手の確保・育成

- 「はだの市民農業塾」などを通じて、農業後継者の育成や、高齢農業者や女性農業者、定年帰農者など多様な担い手への支援強化に努めます。
- TAC（地域農業の担い手に向く営農担当者）の活動充実を図り、営農情報の発信を強化します。
- 「JAグリーンはだの」の機能充実を図り、生産資材コストの削減に取り組みます。
- 農業機械のレンタル事業に取り組みます。

4. 観光農業の振興

- 体験型農園や収穫体験型観光農業の活性化に向け、情報発信機能や支援機能の強化に取り組みます。
- 旅行業者との連携により、観光資源の活用方法の検討や、援農体験などの観光農業プランの開発に取り組みます。

5. 地域農業の振興

- 地区の特徴、都市との関係、地理的条件、担い手の有無など、地域性を考慮した農業振興に取り組みます。

2018年度事業計画の実践

—第四次中期経営計画(2016年度～2018年度)最終年度—

1. 組織運営改善実施計画

- 組合員の加入促進と組合員後継者対策強化
- 組合員の事業利用促進と活動への参加呼び掛け
- 支所運営委員会による支所を拠点とした協同活動の展開
- 組合員訪問日や座談会、生産組合長会議などを通じた多様な組合員意思の反映
- 生産組合・女性部・青年部など組合員組織の活性化
- 組合員教育事業の体系的な実施と次世代対策活動・広報活動の充実
- 相談事業の充実と税務対応・補償対策

3. 経営管理改善計画

- 役員執行体制の強化とトップマネジメント機能の維持向上
- 施設の再編整備の検討
- 安定した総合経営収支と健全な財務基盤の維持強化
- コンプライアンス（法令遵守）態勢の充実・強化
- 人事労務管理強化および役職員教育研修の充実
- 第五次中期経営計画の策定
- 創立55周年記念事業の展開
- 「JAはだの自己改革」の着実な実践

2. 事業活動改善実施計画

- 「第三次地域農業振興計画」初年度の着実な実践
- 担い手ニーズに対応できる営農指導員の育成
- 多様な担い手の確保と新規参入者への支援強化
- 子育て支援・高齢者福祉活動などの充実
- 販売力の充実・強化や買取販売の拡充
- 仕入れ機能の強化と物流体制の見直し
- 金融サービス機能の充実と利用者層の拡大
- 農業の担い手支援や農業振興に向けた農業資金の対応
- 利用者満足度の向上と組合員・利用者のニーズに合った保障の提案

4. 組合員の期待に応える事業展開

■経済事業	■共済事業
販売取扱高	普及推進活動目標
2018年度計画 22億円	2018年度計画 840万ポイント
(2017年度実績 23億円)	(2017年度実績 947万ポイント)
購買取扱高	長期共済保有高
2018年度計画 30億円	2018年度計画 4,450億円
(2017年度実績 33億円)	(2017年度実績 4,469億円)
■金融事業	
貯金残高	
2018年度計画 2,245億円	
(2017年度実績 2,208億円)	
貸出金残高	
2018年度計画 418億円	
(2017年度実績 418億円)	

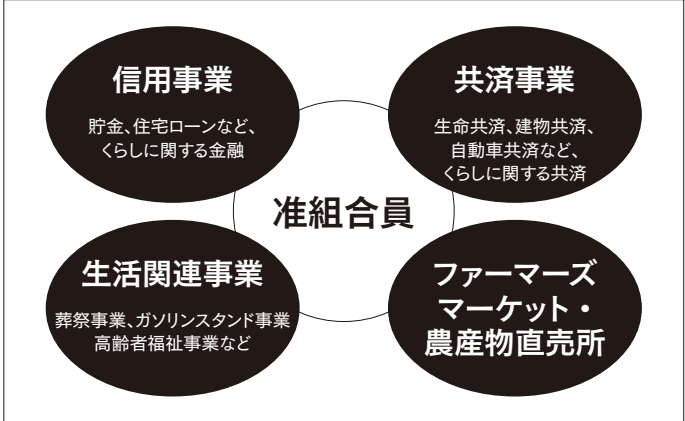
J A はだの自己改革への挑戦（2017年度主な取り組み報告）

重点実施事項	
1. 営農指導事業強化に向けた取り組み（担い手の育成・支援）	・営農課職員の資質向上を目指し資格取得に取り組みました。（営農指導員認証 1 名、農産物検査員養成研修 3 名修了） ・販売振興作物「ニンジン（アロマレッド）」の共販体制の整備と産地育成に取り組みました。（15件・60㍓） ・J A 全農中央ベジフルセンターと連携し、「業務用ラッキョウ」の試験栽培を開始しました。（4 件・4 ㍓） ・地域活性化に向けて上地区営農推進協議会と連携し、そば作り教室を開きました。（申込者27名・作付面積11㍓） ・鳥獣被害対策作物「エゴマ」の作付けの拡大を図りました。（10件・44㍓） ・T A C と融資担当者が連携して担い手農家を訪問。農業資金相談に対応し、18件・3,018万円を実行しました。 ・県内初の直売所オリジナルのG A P 「J i b a - G A P」を導入し、段階的に普及を進めました。 ・じばさんずでの価格設定の目安になるよう、同店バックヤードに近隣量販店の野菜価格の掲示を開始しました。 ・市街化区域農地の新たな活用方法として「体験型農園」の開園を支援。2018年 4 月に市内初の園が平沢にオープンします。
2. 販売力強化に向けた取り組み	・生産者の販路拡大の要望に応え、新たにブロッコリー、ニンジン、サツマイモ、生落花生、プルーン、サトイモをJ A 全農中央ベジフルセンターへ販売しました。 ・J A 東京アグリパークのイベントに参加。生産者から買い取りした秦野産農産物・農産加工品を販売し、P R しました。 ・マックスバリュ 秦野東田原店の出荷グループを設立し、出荷を開始しました。 ・農業者の所得向上に向けた取り組みとして、「はだの丹沢梨サイダー」「はだの丹沢苺サイダー」「しゅわっと梨飴」を商品化し、販売しました。 ・「峠の一寸そら豆」を産地間提携先であるJ A ちば東葛農産物直売所「ふなっこ畑」に出荷しました。 ・余剰農産物を加工業者に販売し、農家の所得向上に努めました。（加工用ナス497.5^{キロ}を集荷） ・農産加工者を支援するため新たに加工相談会を開催しました。（全6回） ・女性部の共同購入に「はだのじばさんコーナー」を掲載し、地元農産物の消費拡大とP R に努めました。 ・じばさんずで 5 % 引きの特典があるJ A カードの入会キャンペーンを実施しました。 ・正月用なますの原料として生産者からダイコンを買い取り、業者に販売しました。 ・東海大学学食へ規格外野菜などの販売を検討しました。実現に向けて話し合いを継続します。 ・静岡県小山市の道の駅「ふじおやま」に生産者から買い取りした野菜の販売を開始しました。
3. 生産購買強化・再構築に向けた取り組み（生産資材価格メリットの提供）	・農家の生産コスト削減に向け、ホームセンターなどの生産資材価格を把握した上でより安価に仕入れが可能な業者を選定し、J A グリーンの仕入れ価格を軽減しました。 ・有害鳥獣対策として電牧器購入費の助成を継続するとともに、J A グループ神奈川の「農家所得増大・地域活性化応援プログラム」の推進・活用を図りました。（電牧器助成 150件 346万2千円、応援プログラム有害鳥獣分受付 26件・56万1千円、農機等取得費助成 20件・740万4千円） ・予約購買の大口値引き基準を見直し、農家の生産コスト削減に努めました。（肥料50袋→30袋以上、また2～4月の期間内に累計60袋以上購入でさらに3%引き、農薬購入価格10万円→7万円以上で各予約値引き＋3%値引き） ・J A グリーンの利用増加と農家の生産コスト削減に向け、生産資材の割引キャンペーンを継続的に実施しました。 ・組合員の要望に応えJ A グリーンの開店時間を30分早めて午前7時30分にしました。
4. 組織運営・経営管理改善に向けた取り組み	・各支所運営委員会で地域に根差した協同活動を展開し、組合員の結集を図りました。 ・正・准組合員が一体となって「J A はだのみんなで地産地消運動」に取り組み、秦野の農業振興に努めました。 ・2018年 5 月の役員改選にあたり定数の変更を行いました。（43人から30人へ） ・営農経済改革実践報告の冊子を作成し、7月の組合員訪問日で正組合員世帯へ配布しました。 ・J A や農業を分かりやすくP R するため、オリジナルキャラクター「やえのちゃん」と「びーなマン」を活用しました。 ・全職員に対し農協改革に関する理解促進に向けた研修会を実施しました。 ・農業に対する理解を促すため、デジタルサイネージ（電子看板）を全店舗のロビーに設置しました。



J A を支えるパートナー

J A には、農業者の他に、地域住民の方にも組合員に加入して事業を利用することができる准組合員制度があります。准組合員は、以下のような事業を中心に利用できます。



准組合員の事業利用によりJ A の経営が安定し、農業関連事業の実施や地域に必要な生活サービスの維持が可能となるなど、正組合員にとってもメリットがあります。

まさに、正組合員と准組合員が共にJ A 事業を通じて地域の農業とくらしを支え合っていると言えます。

しかし、2014年5月の安倍内閣の諮問機関である「規制改革推進会議農業ワーキンググループ」による「農業改革に関する意見」では、准組合員の事業利用は、正組合員の事業利用の2分の1を超えてはならないとされました。2016年4月に施行さ

—准組合員制度とは—

れた改正農協法では准組合員の事業利用規制は先送りされたものの、附則において2021年3月までに正組合員と准組合員の利用実態を調査し、その上で結論を得ることになっており、再び議論が始まることが懸念されます。准組合員の利用規制は実施するかどうかも含めて内容は決まっていますが、准組合員比率が80%であるJ A はだのような、都市部のJ A にとって規制が行われた場合、J A 経営の存続が難しくなり地域農業振興とくらしを支える仕組みがなくなってしまう恐れもあります。

今こそ、農業とくらしを守るために下記のように正組合員と准組合員のつながりを強化し、それぞれの役割を果たし、「J A はだの」に結集し、農業協同組合の大きな特徴である准組合員制度の存続を訴えていくことが必要です。

正組合員と准組合員のつながり強化に向けて

1. 農業協同組合の組合員として、農業の果たす役割や食の安全・安心について関心を持ちましょう。
2. 協同組合講座などを受講し、協同組合について積極的に学びましょう。
3. 地域農業の振興のため「J A はだのみんなで地産地消運動」を実践しましょう。
4. 支所を拠点とした地域に根差した協同活動やJ A の行事に参加しましょう。
5. 「J A はだの農業応援定期貯金」など農業を支援するJ A の事業を利用しましょう。

